

白いはなびら①（教科書十四ページから二十七ページ、ワークシートをすすめる時は、二十八、二十九ページもさんこうにしましょう。）

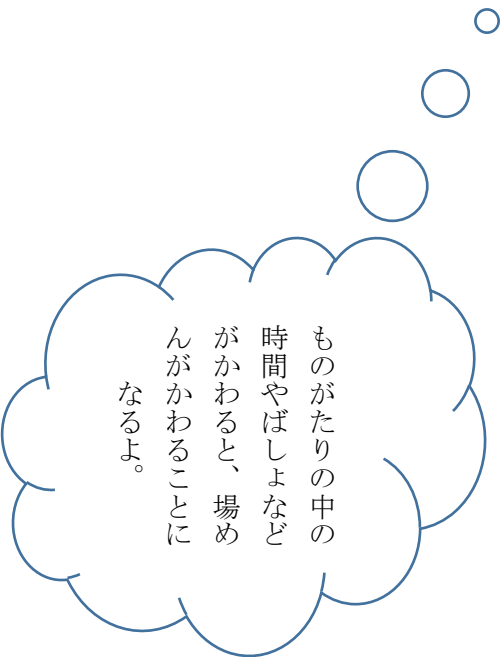
めあて

とう場人ぶつ、場めんに気を付けながら音読しよう。

❁ 「白い花びら」を音読しましょう。

1、このものがたりにはだれが出てきましたか。また、何人いましたか。

2、このものがたりは、いくつの場めんからできていますか。



3、「白い花びら」を読んで気がついたことを書きましょう。
(おもしろかったこと、気に入ったところ、ふしぎに思ったところなど)

白い花びら②

めあて

場めんごとにどのようなできごとがあったか考えよう。
 ゆうたとかずきはそれぞれどのような子どもか考えよう。

❀ 「白い花びら」を音読しましょう。

1、場めんごとにどのようなできごとがあったのか、短い文で書きましょう。

場めん	で き ぐ と
(一) 十四ページ一行目から 十七ページ五行目まで	
(二) 一七ページ六行目から 一九ページ十一行目まで	
(三) 二十ページ一行目から 二五ページ二行目まで	
(四) 二五ページ三行目から 二七ページ九行目まで	

2、ゆうたとかずきはそれぞれどのような子どもかわかる部分を教科書に線を引きましょう。

3、ゆうたとかずきはどのようなせいかくでしょうか。教科書に書きこんだ線をもとに、考えましよう。

ゆうた	
かずき	

白い花びら③

めあて

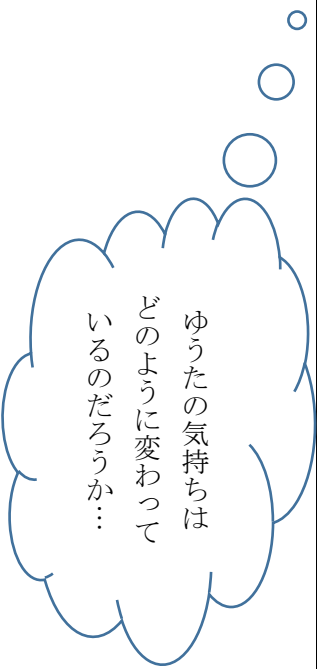
女の子にたいしてゆうたはどのような気持ちになったのかを考えよう。

❁ 「白い花びら」を音読しましょう。

女の子がとう場したときの、ゆうたの気持ちを考えてみよう。

ばめん	女の子のとう場ばめん	ゆうたの気持ち
一	<ul style="list-style-type: none"> ・林にむかって話しかけている。 (十六ページ七行目)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・おどろいたような目でゆうたを見て、そして、にこりとわらった。 (一六ページ十一行目)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・もういちど見たら、女の子はいなかった。 (十七ページ五行目)	
二	<ul style="list-style-type: none"> ・——でもあの子…。 ゆうたはふと思った。 (十九ページ八行目)	

ばめん	女の子のとう場ばめん	ゆうたの気持ち
三	<ul style="list-style-type: none"> ・行ってみると、この前の子だった。岩の上で、よこむきにすわって、足をぶらぶらさせている。 (二十ページ八行目) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・女の子の馬と、ぬいたりぬかれたりしながら、ゆうたは草の上をかけた。 (二十一ページ十一行目) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・女の子のすがたは、だんだん小さくなっていく。 (二十四ページ四行目) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・女の子のすがたは、どこにもなかった。 (二十四ページ十行目) 	
四	<ul style="list-style-type: none"> ・そして、こんな声がゆうたの耳に聞こえた気がした。 ——またね、また会おうね。 (二十七ページ五行目) 	



白い花びら④

めあて

ゆうたはまた女の子に会うことができるのか、考えよう。

❁ 「白い花びら」を音読しましょう。

○ゆうたは、女の子にまた会えると思いますか。

(会える ・ 会えない)

理由



【めあて】 「白い花びら」の文のひょうげんを考えよう。

❁ 「白い花びら」を音読しましょう。

○次の——線のことばは、どのようなようすをあらわしているか、考えましょう。

【れい】 (大きな音をたててうごく様子)

・風がふいてきて、まわりの草がザアツとゆれた。

()

(一) 歩くと草が「キュッキュツ」と鳴る。(十六ページ)

()

(二) 日だまりの中で、ふわりと花のようなおいがしたな、と思ったとき。(十六ページ)

()

(三) かずきは、ひらりと岩にまたがった。(十七ページ)

()

(四) せなかをびんとのばして、まるで本当に馬に乗っているみたいだ。(二十一ページ)

()

(五) 女の子のかみの毛が、ひらひらゆれて、その先から、花びらが雪のようにふってくるのだ。
(二十四ページ)

()

(六) まわりが、ぼうつと白くなってきた。(二十四ページ)

()

(七) ゆうたは、ほんやりと前を見た(二十五ページ)

()

(八) かずきは、かってにずんずん歩いていった。(二十五ページ)

()

(九) 野原は、しんとしずかだ。(二十五ページ)